

私たちの医療理念

2006年3月27日制定

人権をまもり、健康な暮らしに役立つ医療を地域とともにつくります。

理念に基づく行動

- ◆医療が保障される社会づくり
 - *個人が尊重され、社会的な平等のない医療・福祉制度の実現をめざします。
 - *最大の環境破壊である戦争に反対し、平和と環境をまもります。
- ◆私たちの医療の目的と姿勢
 - *すべての人々が、健康に生き、尊厳をもって療養できるよう支援します。
 - *利用者によりそい、自律を育み、安全・安心で最適な医療・介護を行います。
- ◆医療従事者としての成長
 - *科学的視点と高い倫理観をもち、医学の成果と社会の進歩に学びます。
 - *地域のなかで、育ちあう喜びとやりがいを感じられる職員に成長します。

私たちが目指すもの(基本方針)

2018年4月1日制定

人を人として尊重し、地域包括ケア時代に輝く急性期病院になる

～病院のリニューアルを成功させる(準備する)～

- ①救急医療・がん医療を軸に急性期病院としての医療機能と質を高める。
- ②総合性と専門性を備えた医療専門職が集い、育つ病院となる。
- ③ヘルスリテラシーを高める活動とともに、健康の社会的決定要因(SDH)の視点を日常診療にいかした生活支援を行う。
- ④4つのセンターを中心に、各医療チームの活動が発展する組織運営を行う。

2019 年 年報 巻頭言



院長 増田 剛

2019年度は協同病院開院以来の大事業であるリニューアルの基本構想を6月の総代会で確定し、いよいよ本格的な建設計画をつくるための作業に取り掛かる1年となりました。業者の選定を行い、建設委員会を立ち上げ、打ち合わせや各部門とのヒアリングを開始しつつ、だんだんと具体的な絵が見え始めてきています。検討を深める程、もっと良いものを、という思いが強く出てきて、想定以上に豪勢なものを求めたくなってくるのが正直なところです。限られた予算の中でどのように折り合いを付けられるのかがこれからの課題と言えるでしょう。

秋には個人的に大変楽しみにしていたラグビーワールドカップが開催されました。One Teamを掲げて見事なパフォーマンスを魅せた日本代表チームを称えるとともに、豪雨災害により試合が中止になったにもかかわらず、「こんな時はラグビーよりもずっと大切なことがある」と、土砂掃除のボランティアに参加したカナダ代表選手の姿に、本当のスポーツマンスピリット、フェアプレー精神を觀た思いがして、心に残る素晴らしいワールドカップになったと感じています。

そして、年が明けて、全世界が震撼する事態が勃発しました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックです。あの「スペイン風邪」を実体験したのは世界でもほんの一握りの人でしょうから、現在のコロナ禍は今を生きる私たちにとって未曾有の体験と言えます。既に1200万を超える感染者、50万を超える死者を出し、その拡がり方は、世界的にみれば目を追うごとに悪化しています。この文章を書いている2020年7月の段階で言えば、連日20万人を超える新規感染者が発生している状況です。経済的損失はかのリーマンショックを越える勢いで、今後どれくらい悪化するのか想像もつきません。

日本は第一波を小規模な被害で乗り越えたように見えてましたが、それが完全に収束する前に再悪化の状況に陥っています。対応を誤ると欧州や南北アメリカ大陸で起こっているような事態になりかねません。人権を第一に置いた政治判断と適切な方針提起が必要だと思えます。

今回のコロナ禍は人類に何を問いかけているのでしょうか。様々な言説がある中で、私は経済最優先の市場原理主義がもたらしたものについて、真摯な振り返りとそれを乗り越えるた

めの勇気ある決断が求められていると感じています。自然破壊による動物の生存環境の変化が人間と動物の新しい接触機会を増やし、新興感染症が発生する素地がつくられた、という説は多くの専門家が指摘するところです。また、近年の温暖化に代表される地球環境の危機も、経済第一主義によって化石燃料を大量に使用した結果として捉えると言うのが、現在の環境問題を巡る主流となる考え方です。

もっと現実的な医療や介護の問題に引き寄せて考えても、大事なことが明らかになりました。今回の新型コロナウイルス感染症により欧州の数カ国で起きたオーバーシュートの根本的な原因は、2007～2010年の経済危機以降進められた社会保障抑制政策による医療機関の統廃合や医師をはじめとした医療従事者の海外流出です。パンデミックに立ち向かう戦力がはじめから足りなかったのです。こうした流れは日本でもこの間一貫して進められてきました。様々な理由を付けて病床削減を現場に求め、毎回の診療報酬改定で経済的強制的に誘導するやり方が採られてきました。現在多くの医療機関は経験したことの無いような大きな収益減に見舞われていますが、元々日本の半分以上の病院は赤字経営であり、職員の長時間過密労働に支えられながら、毎年ギリギリの攻防を行ってきたのです。

今後人類が持続可能な社会を構築するためには、これまでのやり方を変えていく大きな決断が求められると思います。政治的立場の違いを横に置いて、多くの勢力が協力して取り組まなければならない、人類史的課題と言えるのではないのでしょうか。

2020年度は波乱の幕開けとなりました。コロナ禍で生業を奪われ、生活の継続が難しくなっている人が巷に渦巻いています。大量の休業者は失業者となり、生活保護の申請数が日本中で増えています。感染を恐れ、通常の通院を控える患者や少々辛くても受診を避ける病人がいます。そうしたあたらしい「困難」に繋がっていくことが私たちの使命と心得て、奮闘していく決意を述べ、巻頭言と致します。

埼玉協同病院 年報 2019 年 VOL32(通巻第 34 号)

目 次

I. 病院の概要	
1. 概要	1
2. 組織図	2
3. 2019年度事業所スコアカード	3
4. 2019年度活動報告	5
5. 主要行事	9
6. 施設基準	11
7. 教育研修指定関係	12

II. 統計	
1. 2019年度 医療経営統計等	13
2. 医療の質の改善の指標(2019年版)	16
3. 退院患者統計	36
4. 外来患者統計	60
5. 救急患者統計	62
6. 地域連携課のまとめ	64
7. がん統計	75
8. 副作用報告	77
9. 細菌薬剤感受性検査統計・分離菌検出状況	79

III. 診療科活動状況	
内科	81
循環器内科	83
呼吸器内科	85
消化器内科	87
糖尿病内科	90
腎臓内科(透析)	91
救急・総合内科	92
在宅医療	93
禁煙外来、被ばく相談外来、甲状腺外来	94
小児科	95
外科	97
乳腺外科	99
整形外科	100
脳神経外科	103
産婦人科	104
皮膚科	107
眼科	108
耳鼻咽喉科	109
精神科	110

リハビリテーション科	111
麻酔科	112
病理診断科	113
臨床検査科	116
放射線科	117
健康増進センター	117

IV. 部門の活動状況	
医療安全管理室	118
医療情報管理室	119
感染管理室	120
看護部	121
外来看護科 I	122
外来看護科 II	123
C2病棟看護科	124
C3病棟(産婦人科)看護科	124
C3病棟(小児科)看護科	125
C4病棟看護科	126
C5病棟看護科	127
D2病棟看護科	128
D3病棟看護科	128
D4病棟・HCU看護科	129
D5病棟看護科	130
手術看護科	130
透析看護科	131
看護育成課	132
看護サポート	133
医局事務課	133
薬剤科	134
検査科	135
放射線画像診断科	136
リハビリテーション技術科	137
食養科	138
ME科	139
環境管理課	140
入院医事課	140
外来医事課	141
システム管理課	142
健康管理課	142
医師アシスト課	143
資材課	144

組合員活動課	144
総務課	145
つくし保育園	146

V.委員会等活動状況

委員会等組織図	147
クオリティマネジメントセンター	148
総合サポートセンター	149
HPH推進センター	150
教育研修センター	151
医療安全委員会	152
感染対策委員会	153
抗菌薬適正使用支援チーム	153
感染対策チーム	154
部署ICS会議	154
倫理委員会	155
研究倫理審査委員会	156
臨床研修管理委員会	156
初期研修委員会	157
外来診療委員会	158
病棟診療委員会	158
救急診療委員会	159
がん診療委員会	159
労働安全衛生委員会	160
防災対策委員会	161
栄養管理委員会	161
医療ガス管理委員会	162
臨床検査適正化委員会	162
輸血療法委員会	163
省エネ推進事務局会議	163
適切なコーディング委員会	164
透析機器安全管理委員会	164
保育運営協議会	165
経営委員会	165
病院利用委員会	166
地域活動委員会	166
SHJ委員会	167
広報委員会	167
医療材料検討委員会	168
看護学生委員会	168
医学生委員会	169
薬事委員会	170
クリバス委員会	170
電子カルテ委員会	171
SP担当者会議	171

がん化学療法チーム	172
栄養サポートチーム	173
乳腺科医療チーム	173
緩和ケアチーム	174
糖尿病医療チーム	175
呼吸器医療チーム	176
消化器内科医療チーム	176
小児虐待対応チーム	177
子育て支援チーム	178
禁煙チーム	178
認知症ケアチーム	179
精神科リエゾンチーム	179

VI.学術・研究、講演、研修会等の記録

1. 国際学会、国内学会総会等の発表 ...	180
2. 埼玉協同病院 第2回医療活動交流集会	183
3. 第14回全日本民医連 学術・運動交流集会	184
4. 第8回埼玉民医連 学術・運動交流集会	185
5. 2019年度 埼玉民医連 看護学会 ...	187
6. 講演会活動等	188
7. 著書・論文、寄稿等	194
8. 院内における教育活動	197

VII.医師名簿

医師名簿	207
------------	-----